

耐震建物08 コメントリスト

No	コメント内容	反映内容	コメント日
1. 耐震建物08 本文			
1-1	各因子におけるSTEP②の結果については、別紙の読み込みで記載するのではなく、本文中で結果について記載すること。	次回提出時に追記	2023/11/29 ヒアリング
1-2	STEP③の基本モデル設定方針についても、会合資料で方針を示すことになるため、現時点における方針の内容を記載すること。	次回提出時に追記	
1-3	計算書取りまとめに係る検討について、どの段階の検討が完了次第記載されることになるのか、ステータスが分かるような記載を追加すること。	次回提出時に追記	
1-4	P53「施設個別評価の段階」との記載について、以下の考え方を明確に示すこと。 ・共通的な資料（耐震建物08の新たな別紙）での説明か、施設の計算書での説明か ・「その他の表層地盤」に含まれるもの（六ヶ所層、造成盛土等）を明確にする ・地盤物性等に係る全体の考え方である資料であるため、現時点における物性値等の設定の考えを明確にする	次回提出時に追記 その他の表層地盤に対する説明については、6.1.4 データ整理方針において具体的な対象施設とその周辺にある地質を記載し、設定方針を示す。	
1-5	岩盤部分の物性値等のばらつき幅の設定について、第1回での設定結果も踏まえ、本来どのように設定すべきか説明したうえで、第2回での母集団設定のプロセスがわかるような記載とすること。	次回提出時に追記	
2. 別紙2-1 岩盤部分の物性値等の設定について			
2-1	P198-199 検討方針については、6.1や6.2の方針の中で断面図など1例を示しながら、方針の説明がわかりやすくなるよう見直すこと。	次回提出時に追記	2023/11/29 ヒアリング
2-2	P204等「同じ標高において同程度の上載圧が生じ、速度構造は同様の傾向を示すと考えられる」との記載について、「同様」の用語の意味等が不明確となっていることから、記載を適正化する。	次回提出時に追記	
2-3	直下又は近傍の定義を明確にすること。	次回提出時に追記	
2-4	断層の影響確認において、検討の目的（減衰に係る検討での断層影響に係る知見踏まえたもの）に沿った検討として、PS検層データにおける地層境界を建屋直下各位置の地下構造にあわせて補正することが適切であることがわかるよう、検討の方針を具体化すること。	次回提出時に追記	
2-5	断層の影響確認において地盤応答の算定に用いている地震動の考え方（どの地震波、解析条件、方位等）について、記載を追加すること。	次回提出時に追記	
2-6	断層の影響確認において、応答スペクトルの比較における着目点の考え方を明確にし、最終的な結論が分かるような記載をすること。	次回提出時に追記	
2-7	断層による影響確認について、1次元での評価をすることで妥当であることの説明について検討すること。	次回提出時に追記	
2-8	各グループにおけるPS検層孔の選定の考え方について、グループ周辺の既往孔の適用について検討を行い、全体共通の考え方を整理したうえで説明すること。	次回提出時に追記	2023/12/12 ヒアリング
2-9	断面図を用いた敷地の地盤状況の確認においては、建屋直下だけでなく、周辺の地質状況を含め確認を行っている旨の説明を追加すること。	次回提出時に追記	
2-10	P211 G14の物性値等の整理結果について、湿潤密度試験結果を踏まえ今後記載することがわかるよう、追前の記載内容を適正化すること。	次回提出時に追記	
2-11	断層の影響確認など、応答スペクトルの比較については、建屋1次周期だけでなく、機器・配管の周期踏まえた確認結果を反映し、文章を修正すること。	次回提出時に追記	
2-12	許可物性との比較結果について、目的として、各位置のPS検層結果の特徴を確認する旨を明確にし、確認の結果、目的に対してどのような傾向となっているかわかるような記載をすること。また、許可物性が深度依存性を考慮していることに対して説明を追加すること。	次回提出時に追記	
2-13	地盤の地下構造の特徴を捉えた地下構造の検討においては、岩盤内の浅部において速度の乖離が生じている原因の分析及びそのデータの扱いについて、各グループ説明を行うこと。	次回提出時に追記	
3. 別紙2-2 岩盤部分の剛性の非線形性に係る検討について			
4. 別紙2-3 岩盤部分の減衰定数に係る検討について			
4-1	初期モデルの設定に係る章において、西側、東側地盤だけでなく、中央地盤の観測位置における地下構造断面についても追加すること。説明にあたっては、中央地盤の速度や地質構造の特徴や同定解析結果の状況を踏まえて断層による影響を考慮しなくてよいとの考えに至った判断について記載を追加すること。	6.3.2にて、中央地盤における初期モデルの設定に当たり、新たに速度境界などを設けないこととした根拠について説明を追加。	2023/11/29 ヒアリング
4-2	参考1に記載しているQ値測定において、観測記録に影響を与える要因を網羅的に整理し、信頼性のあるデータであることの説明を追加すること。（不陸、近接建屋、常時微動など）	次回提出時に追記。	
4-3	シミュレーション解析（地盤応答解析）における解析コードの説明を追加すること。また、他の別紙においても解析を実施している場合も同様。解析コードの妥当性に関する資料についても別途用意が必要。	次回提出時に6. に追記。 妥当性確認結果については別補足説明資料にて説明。	
4-4	西側のシミュレーション解析結果に係る考察については、同じ地震による同じ要因による考察が含まれるため、東側地盤でも同様に考察を追加すること。また、観測記録の時刻歴波形（代表例）も追加すること。	6.3.7.2の「(3) 東側地盤観測点」に考察を追加。また、「(2) 西側地盤観測点」と「(3) 東側地盤観測点」に観測記録のフーリエスペクトルを追加。（対象2地震の他地震に対する周波数特性の差が見やすいよう時刻歴波形ではなくフーリエスペクトルを記載することとした）	
4-5	参考2、3に記載している内容を踏まえ、構成を見直しすること。（別紙2-3本文に入れる、参考2、3を一体にまとめる等）	次回提出時に反映。 参考2、3については一体の資料とする。	
4-6	佐藤ほかの論文の内容について、詳細な説明を追加すること。	No. 4-17の対応とあわせ、次回提出時に追記。	
4-7	東側地盤の同定結果とS波検層の乖離が他地点と比べ大きいことに対し、地震観測位置において得られた知見を踏まえた考察を行い、説明を追加すること（西側地盤も同様）。	7.1において、東側及び西側地盤に係る考察を追加。	
4-8	S波検層結果と地震観測記録による同定結果の比較による減衰定数の代表性については、設計の内容に踏み込んでいることから記載を見直すこと。	7.1より当該記載を削除。	2023/12/12 ヒアリング
4-9	P653 地震波干渉法の線色がS波検層と被っているため、線色を変更すること。	6.4及び7.1に示す中央地盤の地震波干渉法の検討結果の図を差し替え	
4-10	短周期側の減衰定数の振動数依存性について、三軸圧縮試験結果から得られる設計に用いる地震時の非線形性を踏まえた考察を行ったうえで、設計で用いる減衰定数を設定すること。	8.2にて、設計に用いる地盤モデルの設定にあたって必要な考慮事項として記載。検討ならびに設定結果については今後追加。	
4-11	S波検層結果から得られる減衰定数の各地点間の差の扱いについて明確にするとともに、これらの測定値がシミュレーション解析に与える影響等について分析すること。	7.1にて、地点間のデータの傾向の完成について考察を行う旨を追加。 7.4にて、今後実施する考察において、地震観測シミュレーション解析により適切性を確認することも含めて考察を行う旨を追加。 考察の結果については次回提出時に追記する。	2023/12/18 審査会合
5. 別紙2-4 表層地盤の物性値等に係る検討について			
5-1	p822 管理方法と得られたデータを踏まえた考察のつながりが結論として伝わるような記載に見直すこと。	3.5及び5.1において追加データを踏まえた施工年代別の分析結果を整理し、まとめとして管理方法と得られたデータがつながるような説明を追加。	2023/12/12 ヒアリング
5-2	p809 年代別に違いはあることは認識しているが、全体として同じものとみなしてよいと判断する理由を拡充すること。	3.4において追加データを踏まえた施工年代別の分析結果を整理し、違いが僅かであることを踏まえた説明を追加。	
5-3	p805 G0の追加調査を加えたデータの傾向について、わかりやすい表現を踏まえた説明を追加すること。	3.4において追加データを踏まえた施工年代別の分析結果を整理し、違いが僅かであることを踏まえた説明を追加。	
5-4	埋戻し土の1999年以前の施工について、深部に対する深度依存性の適用に関する検討内容を説明すること。	3.4において1999年以前の追加調査内容および結果を踏まえ、深度依存性が確認できることの説明を追加。	2023/12/18 審査会合